

2026 (令和8)年度 春季(4月)入学

鹿児島国際大学

外国人留学生特別試験 (3年次編入)

次の文章を読んで日本語の敬語表現に関する見解を600字程度で述べなさい。

言葉の運用は話し手の対人態度を示すことでもある。話し手がある事柄について述べる場合、その態度は謙遜であったり尊大であったり上品であったり乱暴であったりすることがある。これらの態度は聞き手から見ても話し手から見ても尊厳の保持や美の追求にかかわるものである。

日本語の「お父様」「ご尊父」「お宅」及び「いらっしゃる」「なさる」「賜る」「おっしゃる」「お～くださる」「お～なさる」「お～になる」「ご～くださる」「ご～なさる」「ご～になる」などは相手を高めて待遇する尊敬表現であり、「弊社」「拙著」及び「参る」「伺う」「致す」「申し上げる」「差し上げる」「お～する」「お～いたす」「お～申し上げる」「ご～する」「ご～いたす」「ご～申し上げる」などは自分を貶めて言う謙遜表現である。さらに日本語の「お弁当」「お箸」「お手洗い」「お水」「お菓子」「ご飯」「ご祝儀」は相手に対して配慮し、品格や優雅さを損なわないように洗練を加えた上品な表現である。そのような品格のある表現の上品さは接頭辞の「お」「ご」の意味に由来している。

尊厳を守る言葉の表現、美を追求する言葉の表現はよりよい雰囲気を作り出す手段としてとらえられる。尊敬表現であろうが謙遜表現であろうが上品な表現であろうが、その発話の目的はよりよい雰囲気を作り出すことによって、相手に好感を抱かせて結果的に自分が利益を受けることにある。上品な言葉遣いは相手を持ち上げる表現や自分側を貶める表現と異なったものとして扱ってよいが、美的感覚を追求し尊厳を大切にする点においては共通点が見られる。